

## 中川運輸

## ICT建機を導入

## 日立製は北陸3県で初、更なる生産性の向上へ

一般貨物自動車運送業や建設業を手掛ける中川運輸（魚津市宮津、中川宗佳社長）は、国交省が推進するICT施工に対応するため、日立建機のICT油圧ショベル「ZX200X-5B」を北陸3県で初めて導入した。今回の導入を契機に、同社のICT施工は本格的に始動する。

「ZX200X-5B」は、日立建機独自の「マシンコントロール機能」とオペレータをナビゲートする「マシンガイダンス機能」を搭載。GPSやGNSSを用いた衛星測位システムと、車体の角度センサから算出した3D情報を施工対象の3D設計データと照合し、施工のセミオート化を実現した。

また、同機は2D仕様も搭載し、小規模工事や測位衛星が補足できない現場においても、2Dのマシンコントロールとガイダンスによって、作業の生産性が大幅に上昇する。

中川運輸は昨年、北陸地方整備局黒部河川事務所が発注した「浦山縦工外工事」（黒部市宇奈月町浦山地先、朝野工業が受注）において、自社所有機に日立建機からレンタルしたGPSなどの装置を装着し、河川工事では県内で初となるICT施工を実施した。

同社の中川社長は「土量が正確で、丁張りほぼ不要。熟練のオペレータがこなす仕事を機械が効率的にやってくれるなど、施工の効率や精度の向上が確認され、さらに作業環境の改善がみられた」と成果を実感し、導入を決めた。近い将来、ICT施工の工事や建機の更なる普及が進むと睨み、「ICT施工に対応できる若いオペレータを育てたい。最終的には生産性の更なる向上を図りたい」と今後の展望を見

据える。今回導入した機械は、北陸地方整備局富山河川国道事務所が発注する「小糸道路その2工事」（富山市小糸地先、岡部が受注）で7日に初稼働を迎える予定で、先月29日に同社のトレーラーで現場に輸送した。

昨今の建設業界においては、担い手不足の問題が最も囁かれており、「いつまでも3Kや若者が少ないと言っていられない。生産性を向上させ、賃金を上げて人を確保しなければ」と中川社長は言葉に力を込める。

北陸で初導入となる「ZX200X-5B」



操縦席にあるコントロールパネル



HITACHI

Reliable solutions



## その現場の解決策 お任せください、日立建機に！

日立建機は、日立グループとの協創やビジネスパートナーとのオープンイノベーションにより、さまざまな技術を組み合わせて、それぞれの現場のニーズに応えます。

日立建機株式会社 日立建機日本株式会社 [www.hitachicm.com/global/jp/](http://www.hitachicm.com/global/jp/)

## 中川運輸株式会社

魚津市宮津234  
TEL 0765-24-5520  
FAX 0765-24-5527  
<http://www.nukk.co.jp/>

